



## クラシックとジャズ

この通信の中で特定の部活を応援することはないようにしている…というのは、まあ、公平性を保つためなのだが、今回は「応援」ではなくて「紹介」ということで（笑）。

掲示板やロッカーにポスターが貼ってあるからご存じとは思いますが、土曜日にオケ部（ポスターでは「日比谷フィルハーモニー管弦楽団」となっている）が●●●●大ホールで定期演奏会をやることになっている（●：●～開場、●：●●～開演）。で、時間があるようだったら、友だち（ご家族）と誘い合わせて出かけてみるとよいと思う。

私が日比谷に異動して来た頃、オケ部の顧問が国語科の先生だったこともあり、その方から誘われて出かけてみたのだが、いやはや立派な演奏である（…などと評価できるほどの聞く耳はもっていないのだが…）。で、それ以来、毎年このコンサートには出かけているのであるが、ここ数年レベルアップが著しく、無料で、しかも立派なホールで、プロが指揮するクラシックの生演奏が聞けるイイ機会となっている。だから、クラシックなどなかなか聞く機会がない人も、ぜひ体験を広げる意味で出かけてみたらどうだろう。

ちなみに、私は今年始めて出かけることができない。というのも、私が教員になって初めて赴任し、はじめて受け持った学校の生徒たちが50歳となり、同期会を開催することになって、その会にご招待していただいているからである。オケ部のコンサートに出かけたいのは山々だが、今回ばかりはこちらの会を優先したのである。どうか私の分も聞いてきてほしいところである。

\*

大隅先生がノーベル賞を受賞して、村上春樹の文学賞が気になるが、そんな村上春樹の音楽に関する文章を一つ。

\*

ときどき若い人から「ジャズってどういう音楽ですか？」という質問を受けることがある。でもそういう風に唐突に、まるでコンクリート壁にゴム粘土をぶっつけるような訊き方をされても、こちらとしてはなんとも答えようがなく、ただ空しく首をひねるしかない。（中略）しかしたとえ定義はなくても、ある程度ジャズを聴き込んだ人なら、少しその音楽を耳にするだけで「ああ、これはジャズだ」「いや、これはジャズじゃない」と即座に判断することができる。それはあくまで経験的・実地的なものであって、「ジャズとは何か」という判断基準をいちいち物差しのように適用してものを考えているわけではない。誰がなんといおうと、ジャズにはジャズ固有の匂いがあり、固有の響きがあり、固有の手触りがある。ジャズであるものとジャズでないものとを比べれば、匂いが違うし、響きが違うし、手触りが違うし、そしてそれらのもたらす心の震え方が違う。どう違うかというのは、その違いを実際に経験しないとわからないし、経験していない人にそれを言語で伝えるのはまさに至難の業である。

\*

…と、書いておきながら、村上さんはこの後「言語で伝える」ことにチャレンジしていて、とても素敵な話が続いてゆく。興味のある人は、『雑文集』（新潮文庫）の228ページから読んでみるといいだろう。